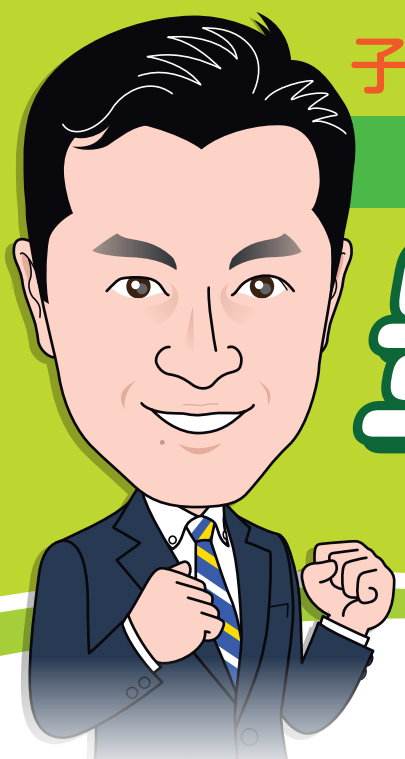
発行責任：同志会
編集責任者：豊田 耕一



子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために!

敦賀市議会議員

豊田こういちレター

Vol.3

学校給食の充実について

学校給食の充実については、2015年12月定例会で質問に立ち質の向上を実現できました。また、敦賀市学校給食センターの米飯化率を上げるために、2016年9月定例会で、民間の会社が炊飯業務を行う委託炊飯に取り組むようお願いしましたが実現には至りませんでした。敦賀市の児童・生徒たちに温かいご飯を提供したい一心で、今回の定例会においても改めて質問に臨みました。

敦賀市学校給食センターが提供する米飯給食の週当たりの平均実施回数は2.5回

文部科学省が発表している「学校における米飯給食の推進について」の調査によると、平成27年度、28年度ともに、米飯給食の週当たりの平均実施回数は3.4回です。

回数別米飯給食実施状況　（国公私立）
平成28年5月1日現在

区分	学校数（校）	
週5回	1,596（5.5%）	28,136（96.4%）
週4.5回	1,828（6.3%）	
週4回	7,136（24.4%）	
週3.5回	4,998（17.1%）	
週3回	12,578（43.1%）	
週2.5回	692（2.4%）	
週2回	299（1.0%）	
週1回	72（0.2%）	
月3回	1（0.0%）	

「学校における米飯給食の推進について」文部科学省

敦賀市学校給食センターの米飯給食実施状況は週2.5回です。左記の図から週2.5回以下を見ると全国のうちの3.6%しかありません。全国2万9200校ある内の1064校に過ぎないのです。その内の11校が敦賀市の学校という残念な結果となっています。このことを敦賀市の児童・生徒たちのために、なんとか改善したいと考えています。

なぜ敦賀市学校給食センターの米飯化は進まないのか?

学校給食が達成できない2つの課題(敦賀市教育委員会の答弁)

まず1点目は、給食センターが供給している現在の米飯給食の総数(約5,120人分)全てに米飯を供給することができればよいのですが、現在の給食センターにおける施設の運用上の炊飯能力は約3,200人分であるため全てを賄えず、学校を2班に分け、週2回から3回の米飯給食を実施しているところでございます。

2点目は、米飯給食の、議員さんから以前御提案もいただきました民間委託ということにつきましても検討いたしましたが、業者さんに聞き取りをいたしましたところ、炊飯については可能ですが配送等の経費に見合う利益が見込まれないとの御回答をいただき、現在のところ委託炊飯は困難であるというふうに考えています。

できることから取り組もう!

このことを改善するために、まず学校給食センターから米飯のみの提供を受ける敦賀南小学校・粟野南小学校・気比中学校・松陵中学校の4校の完全米飯化を提言しました。

敦賀市の学校給食は、学校給食センターで調理を行うセンター方式と、それぞれの学校で調理を行う自校方式の2通りありますが、敦賀市にある公立校でありながら給食の提供基準が統一されていないことも問題です。

副食・米飯対象校	米飯のみ対象校
敦賀西小学校	敦賀南小学校
敦賀北小学校	粟野南小学校
中央小学校	気比中学校
中郷小学校	松陵中学校
粟野小学校	
角鹿中学校	
粟野中学校	
敦賀北幼稚園	
小学校 5校、中学校 2校 幼稚園 1園	小学校 2校、中学校 2校

敦賀市の学校給食

家庭用炊飯器によって炊きたてのご飯を!!

その課題を解決できないかと考え、高知県の南国市に行政視察へ行かせていただきました。今回は、平成10年度から家庭用炊飯器を学校に設置することによって米飯給食の週当たりの平均実施回数を5回にした高知県の南国市を紹介させていただき、ぜひ本市でも取り入れることができないか質問に臨みました。

学校給食の改善が子どもたちにもたらす影響について

高知新聞:平成24年4月2日に掲載された記事より

前略

南国市では、「南国方式」と呼ばれる全国屈指の学校給食が行われています。私の子どももこの方式で育ちました。クラスごとに電気釜でたく炊きたての地元米を、「温かいおかずは食べる５分前に」という考え方で旬の食材を使って作ったおかずと一緒に食べます。

知育・徳育・体育の真ん中に食育を置くという理念の下、食育も充実しています。栄養価や食事についての授業から田植え、稲刈り体験、校庭での野菜作り、そして皿鉢料理作りまで。先生に聞くと「食べ残しはほとんどありません」「心の底から『いただきます』と言いますよ」という答えが返ってきました。

単なる地産地消給食だけであれば、これほど豊かな給食にならないはずです。食育が加わって初めて、心から「いただきます」が言える子どもが育つのでしょう。

この学校給食は、私たちが目指すべき社会のヒントを与えています。

後略

今後も、「子どもたちの食育の充実」を目指し、「学校給食の充実」について提言を行っていきます。

9月定例議会：一般質問　サッカー専用グラウンド建設について

敦賀市にはサッカー専用グラウンドがありません

過去2度のサッカー場建設の請願採択、2年前にはサッカー場適地検討事業費が予算計上されましたが、敦賀市のサッカー専用グラウンド建設は実現していません。サッカーを愛する市民の方々、そしてサッカーの練習を日々頑張っている子どもたちは、サッカー専用グラウンド建設を心待ちにしています。

そこで今回の一般質問では、サッカー場適地検討事業費を使ってどのようなサッカー場を検討していたのか。サッカー専用グラウンドがない現状を市長はどのように考えているのかを確認し、今後サッカー専用グラウンド建設に向けて、こんなサッカー場を作りたいというものを取りまとめて改めて提言したいと考え質問に臨みました。

（敦賀市長の答弁）

全国規模の公式戦を開催できるフィールドを１面、管理棟と器具庫、小型車、バスを合わせて30台程度が駐車できる駐車場を設けるものとし、可能であれば練習やジュニアの試合に使用できるグラウンドを設ける規模で検討しました。サッカー場建設については財政的にも厳しい状況もあり、福井国体の開催における施設整備や、施設改修等も行っているので、今すぐということはなかなか難しい状況と考えますが、国、県の動向や交付金の補助制度等が活用できるか注視しながら、サッカー場建設についても長期的な話になるが検討していきます。

今後も継続的にサッカー専用グラウンド建設について提言を行っていきます。

12月定例議会：一般質問　公民館の現状と今後について

公民館の現状

地域のつながりの再生や創出の場であり、地域住民対応の最前線にある社会教育施設が公民館です。敦賀市には9つの公民館があり、9地区それぞれに特色ある公民館運営を行っていただいています。私は、以前より行政視察等で公民館やコミュニティセンター等の先進事例を拝見していますが、敦賀市の公民館は先進地の運営と比較しても引けをとらない、それどころか敦賀市の公民館の方が頑張っているという印象を持っています。

公民館の今後に向けた課題

内閣府の平成29年版高齢社会白書では、平成28年の労働力人口総数に占める65歳以上の方の割合は、10年前の平成18年の7.8%と比較して11.8%と10年間で4%上昇しています。また、現在仕事をしている高齢者の約4割が働けるうちはいつまでも働きたいと回答。70歳くらいまで、もしくは70歳以上との回答を合計すれば約8割の方が70歳では働いていたいと回答しています。

このことからも、**敦賀市の公民館の館長の定年が64歳というのは明らかに時代に即していない**と感じていました。また、公民館長のなり手が見つからない等の課題について市民の方からご相談を受けていましたので、公民館の館長の定年延長について提言を行いました。

平成30年度から公民館の館長の定年が満69歳に延長されることになりました。

（敦賀市教育委員会の答弁）

来年度からの任用に向けて新たな任用時点での年齢を満65歳未満から満68歳未満に引き上げ、任期を3年から2年とした上で、定年の年齢を満69歳の年齢に達した年の年度末とするよう要綱を改正いたします。

編集後記

このレターを書いている時、福井市を中心に北陸地方では37年ぶりの大雪に見舞われていました。私も公務の合間に、中郷小学校の通学路の除雪や、子どもたちの見守り活動を行っていましたが、大人たちの心配をよそに、雪に埋もれながら笑顔で登下校をしている姿を見て、子どもたちのたくましさを肌で感じ逆に元気をもらいました。これからも、子どもたちの明るい未来のために全力で働かせていただきます。皆様どうか宜しくお願いいたします。

豊田こういちレター Vol.3

2018年2月20日発行
発行責任：同志会　編集責任者：豊田耕一

（このニュースレターは政務調査費で発行しています）

子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために！

敦賀市議会議員　**豊田　耕一**

〒914-0302 敦賀市疋田41号10番地　TEL.090-7116-9049
豊田耕一オフィシャルサイト：toyodakouichi.net
E-mail：inforu.toyoda@gmail.com
ブログ：http://ameblo.jp/artracing
豊田耕一　検索